

ふるさとへの便り— 63

在京雫石町友会 会員 ^{たねこ}種子キエさん



私の想い出とふるさとに感謝

父は横手留蔵、母は築場ユキです。実家の孫八は下久保の旧家で昔は庄屋であったようです。

私は孫八の家に、6番目の末娘として生まれ、子供の頃は大屋のキエっ子と呼ばれていました。姉はお力と呼ばれた女傑で、私を背中に乗せて雫石川の急流を泳いだこともあります。

下久保の家の上で小川が二手に分かれ、船階造りの曲がり屋で白馬^{しろうま}を飼っており私ととても仲良しでした。私に懐いていて私が行くと前足を折って蟹^{たてがみ}につかまらせて背中に乗せてくれました。また上の畑（今の火葬場あたり）に働きに行くとき、白馬の鞍に着けたこびるを入れていた桶に赤ん坊の私を乗せて手綱を鞍に縛ると、自宅まで賢くひとりで帰宅したそうです。

庄屋だったせいにか家には刀や槍が一束以上隠してあったが、兄嫁がイタコに騙されて全て取られてしまった。小学生のころ初めての使いで、おはぎに入れる砂糖を買いに行きました。あまりに嬉しくてお金を握って駅に向かい軌道道を走って行きました。お店に着いてお金を落としたことに気づき、軌道の砂利と枕木のの間を探したが見つからずに、暗くなって戻って母に泣きながら告げると、母は「一生懸命さがしたいへんだったな、でも軌道道は広くて見つからないさ」といって叱らずに、砂糖なしのおはぎを作って、食べる

ときに「みんなして砂糖が入ってると思って、うまいまいとって食べるべ」といって慰めてくれました。私はこの時からお金を大切にするようになりました。雫石川（河原）で泳いだり、やな（築）で魚を拾ったり、滝の上温泉の近くでナメコや椎茸を取って、芋の子汁にして食べた思い出があります。

小学校の担任は海老久田先生でした。学校の同級生は65人で、クラス会の名前はムクドリ会といい、何回か同級会に行きました。同級生には後に先生となった上野善一さんや、鶯宿温泉の石塚旅館の石塚一さんや、石塚善輔さん、石塚栄さん、後藤ミエちゃん、正木キミさん、早くに死んだお寺（上寺）の良一さん等が記憶に有ります。

趣味は裁縫・生け花・書道・写経・お寺参り・般若心経を写経して、息子に連れられて全国の黄檗宗のお寺約300ヶ所を三度も巡り、納経して御朱印を頂きました。その際に全国のカラオケ喫茶巡りもしています。私のレパートリーは約14曲で、色んな人との出会いを楽しんでいます。

約40年間の養護教諭を退職し、息子の住む厚木に家を建て移り住んで現在は息子夫婦と同居しており世話をしてもらっています。また雫石町友会は楽しみに毎回参加して郷土の芸能や出会いを楽しんでいます。

（長男彰氏代筆）



山岸小学校時代
（後列左から4人目が筆者）



吾妻スカイラインで子供達と
（昭和35年）



花巻温泉家族旅行

大正13年10月6日生まれ（91歳）。雫石町尋常高等小学校、岩手産婆看護婦学校本科卒業。岩手医大大学病院、二宮内科勤務（2ヶ月）薬局勤務（2年）、養護教員〔盛岡市立山岸小学校（31年）一遠野市立上郷中学校（3年）一紫波町立赤石小学校（1年）一盛岡市立太田東小学校（2年）〕、神奈川県厚木市在住。